

21世紀生活圈研究会 試行的調査（気仙沼地域）

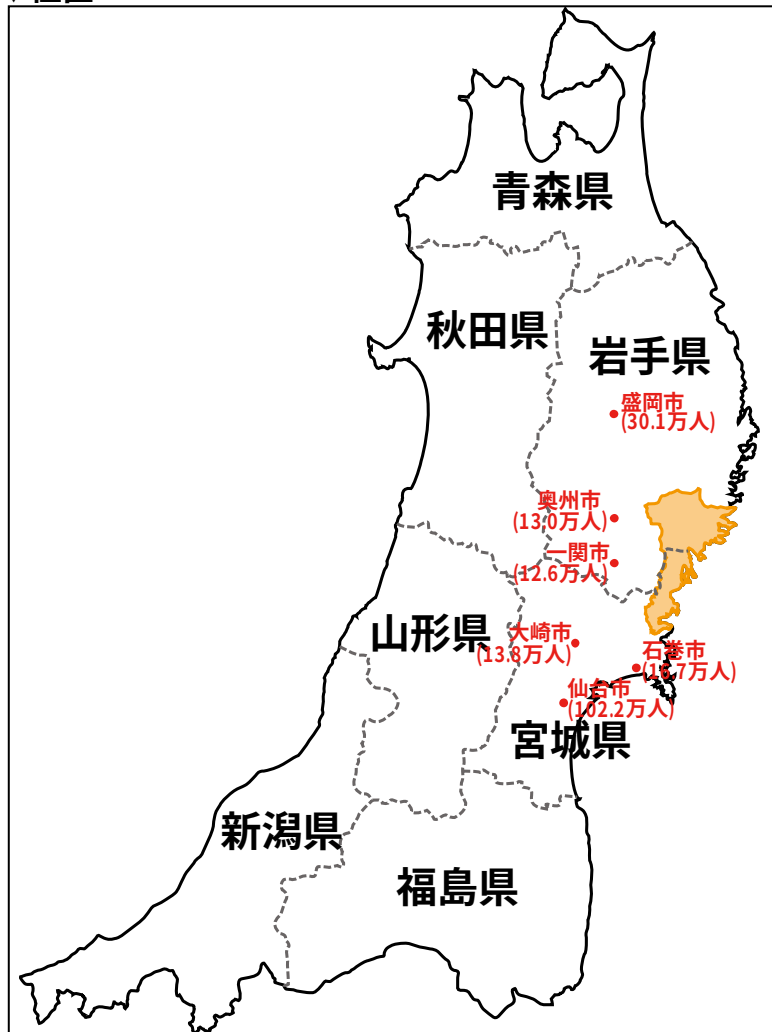
東北地方整備局
平成20年12月16日

1.地域の広域的な位置づけ

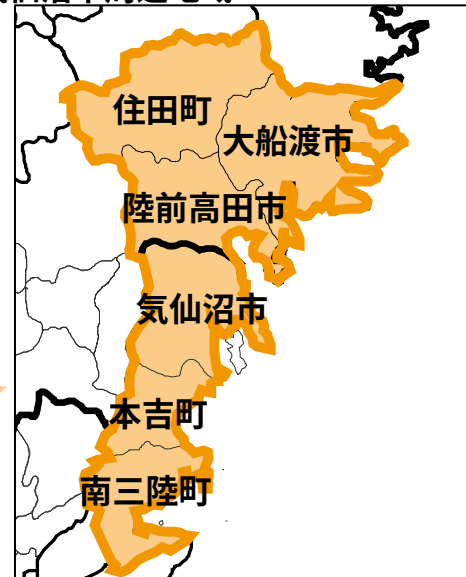
<位置・人口>

- ・気仙沼市は、宮城県北東部の三陸沿岸部に位置し、岩手県陸前高田市と隣接
- ・気仙沼市人口は約6.6万人、三陸沿岸部の周辺地域を加えた総人口は約17.2万人

▼位置



▼気仙沼市周辺地域



▼人口及び面積

市町村名	人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
大船渡市	43,331	323.25	134.05
陸前高田市	24,709	232.27	106.38
住田町	6,848	334.83	20.45
気仙沼市	66,423	226.67	293.04
本吉町	11,588	106.7	108.60
南三陸町	18,645	163.74	113.87
合計	171,544	1,387	123.68

1.地域の広域的な位置づけ

<気仙沼地域の広域的な位置づけ>

- ・ 中心都市の気仙沼市は宮城県内で仙台市から最も離れた地域
- ・ 盛岡市からも離れ、県都や高速交通へのアクセスに時間を要する地域

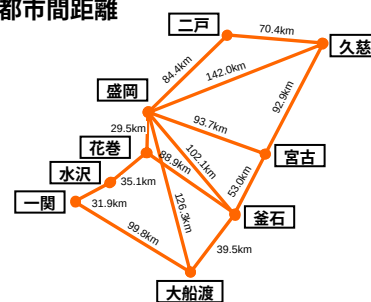
▼仙台市から見た気仙沼市の時間距離



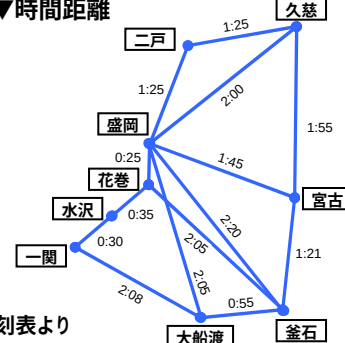
出典：東北幹線道路調査事務所資料より作成

▼「気仙地域(大船渡市・陸前高田市・住田町)」の位置とアクセス性

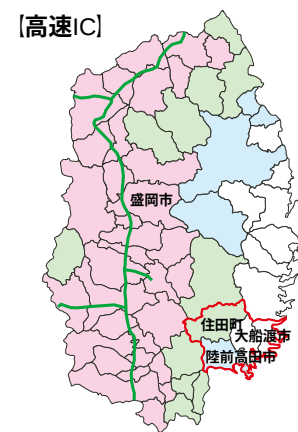
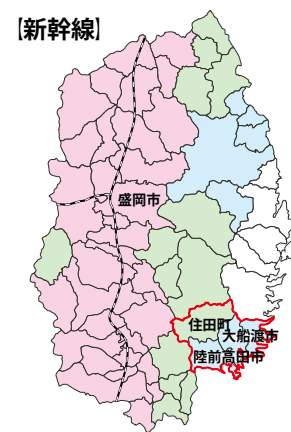
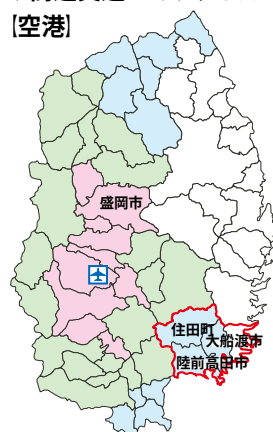
▼都市間距離



▼時間距離



▼高速交通へのアクセス



30分圏 60分圏 90分圏

道路時刻表より

出典：岩手河川国道事務所ホームページ情報より作成

2.地域の現状の把握 (人口・高齢化)

<気仙沼市周辺地域を取り巻く周辺市町村の状況>

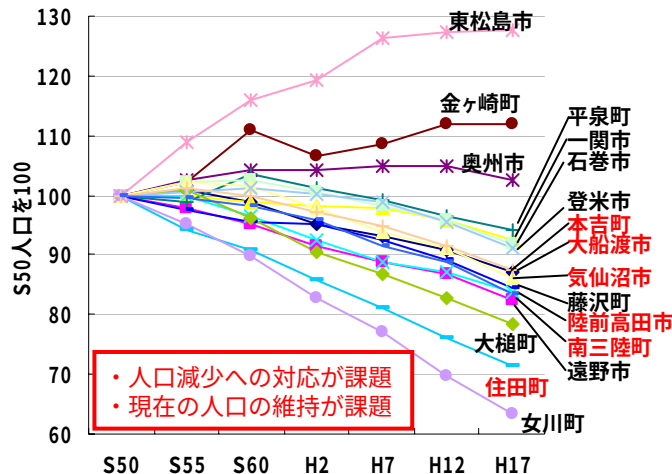
- ・岩手県南部・宮城県北東部の市町村は、多くの市町村で人口減少局面
- ・各市町村とも高齢化率は上昇、人口減少が著しい市町村で高率

▼気仙沼市地域を取り巻く 周辺市町村



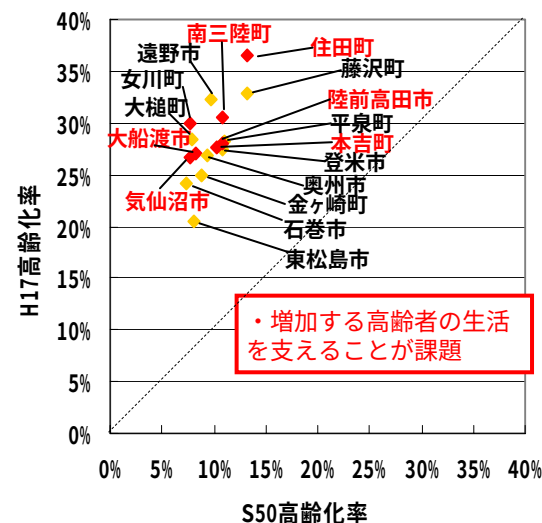
沿岸地域では人口減少が顕著

▼人口の推移



	総人口(人)							増減率
	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	
女川町	16,945	16,105	15,246	14,018	13,044	11,814	10,723	-37%
住田町	9,585	9,036	8,702	8,228	7,783	7,305	6,848	-29%
大槌町	21,078	21,292	20,258	19,074	18,301	17,480	16,516	-22%
遠野市	38,146	37,382	36,312	34,923	33,898	33,108	31,402	-18%
南三陸町	22,343	22,243	21,970	21,401	20,428	19,860	18,645	-17%
陸前高田市	29,439	29,356	28,404	27,242	26,129	25,676	24,709	-16%
藤沢町	11,735	11,434	11,217	11,149	10,836	10,452	9,904	-16%
気仙沼市	77,060	78,863	78,233	75,276	72,276	70,293	66,423	-14%
大船渡市	49,675	50,132	49,041	47,219	46,277	45,160	43,331	-13%
本吉町	13,244	13,383	13,235	12,876	12,572	12,101	11,588	-13%
登米市	98,086	98,568	99,182	98,231	96,832	93,769	89,316	-9%
石巻市	182,168	186,094	186,587	182,911	178,923	174,778	167,324	-8%
一関市	136,198	136,031	134,848	133,747	133,138	130,373	125,818	-8%
平泉町	9,374	9,253	9,703	9,493	9,288	9,054	8,819	-6%
奥州市	126,908	130,318	132,039	132,116	133,228	133,056	130,171	3%
金ヶ崎町	14,653	14,973	16,250	15,627	15,923	16,383	16,396	12%
東松島市	33,901	36,865	39,280	40,424	42,778	43,180	43,235	28%
合計	890,538	901,328	900,507	883,955	871,654	853,842	821,168	-8%

▼高齢化率の変化



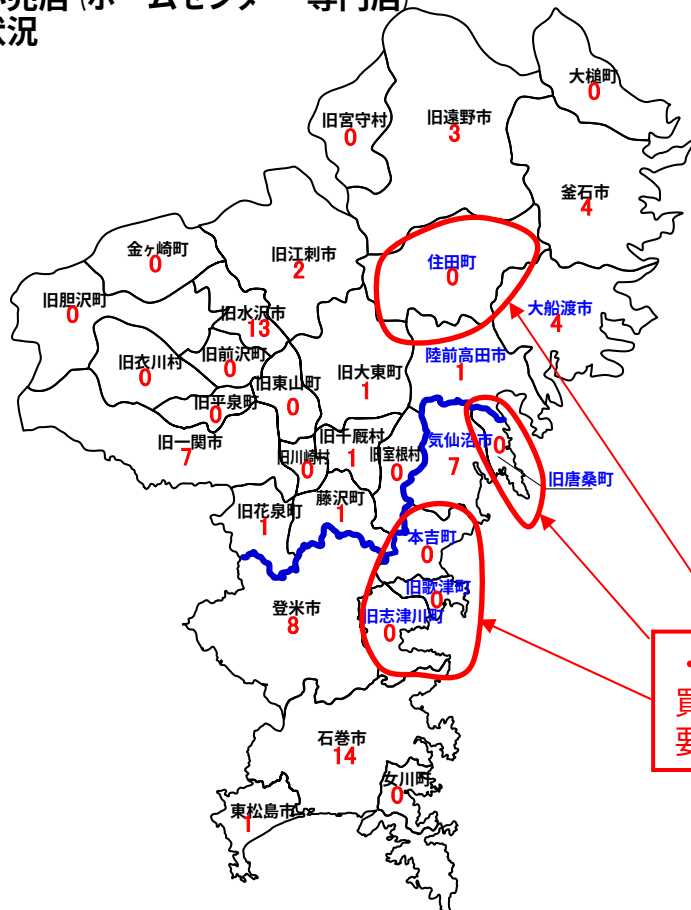
	高齢化率(%)						
	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
住田町	13.2%	15.2%	18.3%	22.0%	27.7%	33.0%	36.5%
藤沢町	13.2%	14.4%	16.9%	20.5%	25.4%	30.1%	32.8%
遠野市	9.7%	12.4%	14.7%	18.0%	22.9%	27.6%	32.2%
陸前高田市	10.9%	12.6%	15.0%	18.2%	22.4%	26.6%	30.5%
女川町	7.8%	9.6%	11.6%	15.0%	19.3%	24.7%	30.0%
大槌町	7.8%	9.1%	11.5%	15.0%	19.6%	24.2%	28.5%
平泉町	11.0%	12.9%	14.7%	17.2%	21.2%	25.7%	28.2%
本吉町	10.9%	12.5%	14.0%	16.7%	20.9%	25.0%	28.0%
一関市	10.3%	12.1%	14.1%	17.1%	21.1%	24.9%	27.6%
南三陸町	10.3%	11.6%	13.0%	15.7%	19.8%	24.0%	27.6%
登米市	10.8%	12.7%	14.6%	17.4%	20.6%	25.2%	27.5%
大船渡市	8.2%	9.7%	11.6%	14.6%	18.7%	23.0%	27.0%
奥州市	9.4%	11.7%	13.8%	16.4%	19.9%	23.7%	26.8%
気仙沼市	7.6%	8.6%	10.2%	13.1%	17.1%	21.9%	26.6%
金ヶ崎町	8.9%	11.0%	12.7%	16.0%	19.1%	22.1%	24.9%
石巻市	7.4%	9.5%	11.0%	13.5%	17.0%	20.6%	24.2%
東松島市	8.1%	9.1%	10.3%	12.2%	14.9%	17.8%	20.5%
平均	9.2%	11.0%	12.8%	15.6%	19.3%	23.4%	26.7%

2.地域の現状の把握 (生活機能 - 買物)

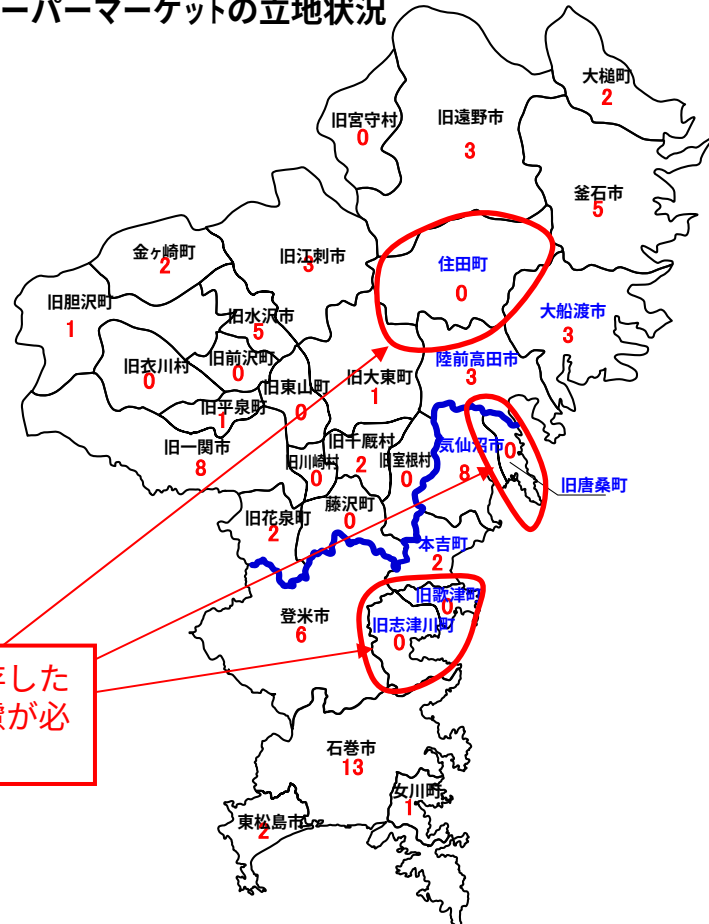
<買物動向>

- ・ (買回品) 気仙沼市には岩手県側を含め周辺市町村を圧倒する商業集積があり、宮城・岩手両県に跨る広域的な商業拠点を形成
- ・ 商業施設の集積が低い町村が存在

▼大型小売店 (ホームセンター・専門店) の立地状況



▼スーパーマーケットの立地状況



・ 他市町に依存した買物動向に配慮が必要

出典: 2006大型小売店総覧
※気仙沼市周辺地域 (青字) に立地する、店舗面積が1,000㎡以上の店舗を対象としている

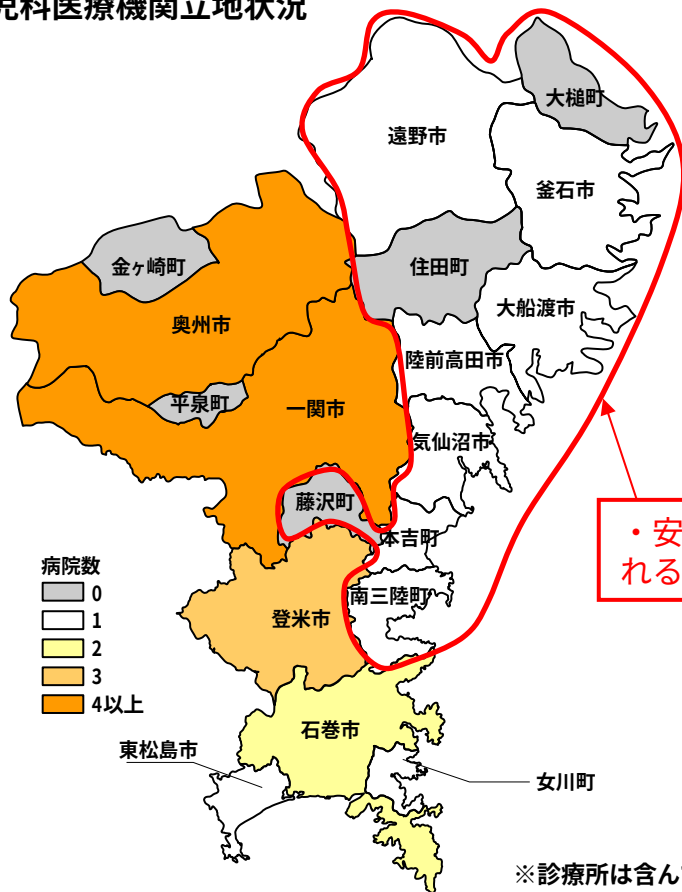
出典: 2006大型小売店総覧
※気仙沼市周辺地域 (青字) に立地する、店舗面積が1,000㎡以上の店舗を対象としている

2.地域の現状の把握 (生活機能 - 医療)

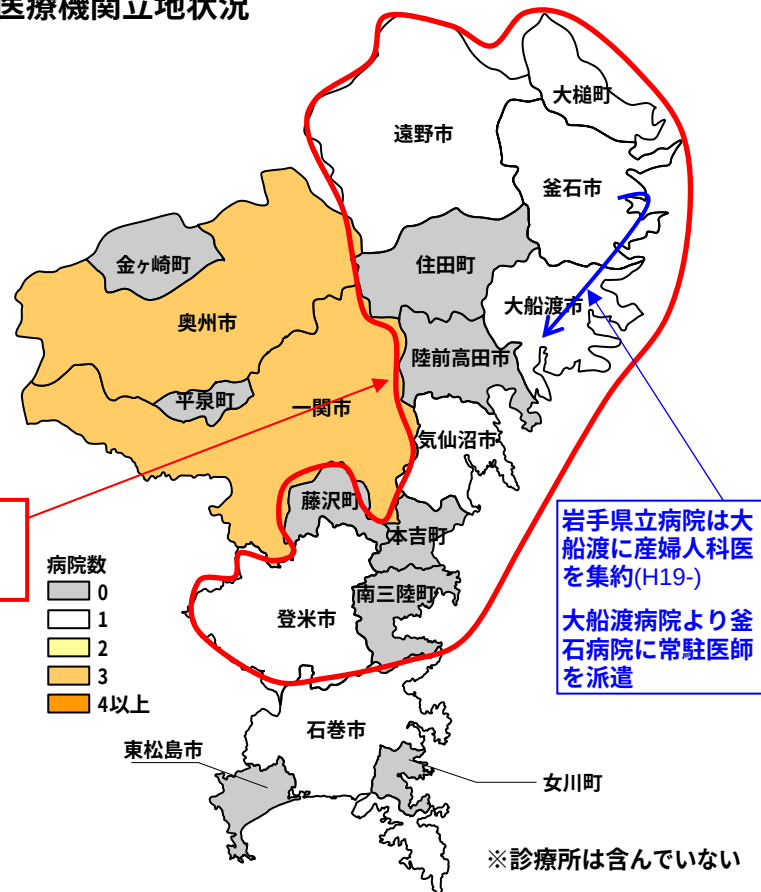
<小児科・産科の立地状況>

- ・三陸沿岸部の小児科は、一施設のための市町が多く、住田町、大槌町には無し
- ・産科は、多くの病院がある市町の多くは内陸部。三陸沿岸では病院がある市町村でも、それぞれ一施設のみ

▼小児科医療機関立地状況



▼産科医療機関立地状況



※診療所は含んでいない

※診療所は含んでいない

※いずれも、20人以上の入院施設を有する「病院」を対象としており、19人以下の入院施設を有する「診療所」は対象としていない

出典：いずれも独立行政法人福祉医療機構HP (WAM NET) より

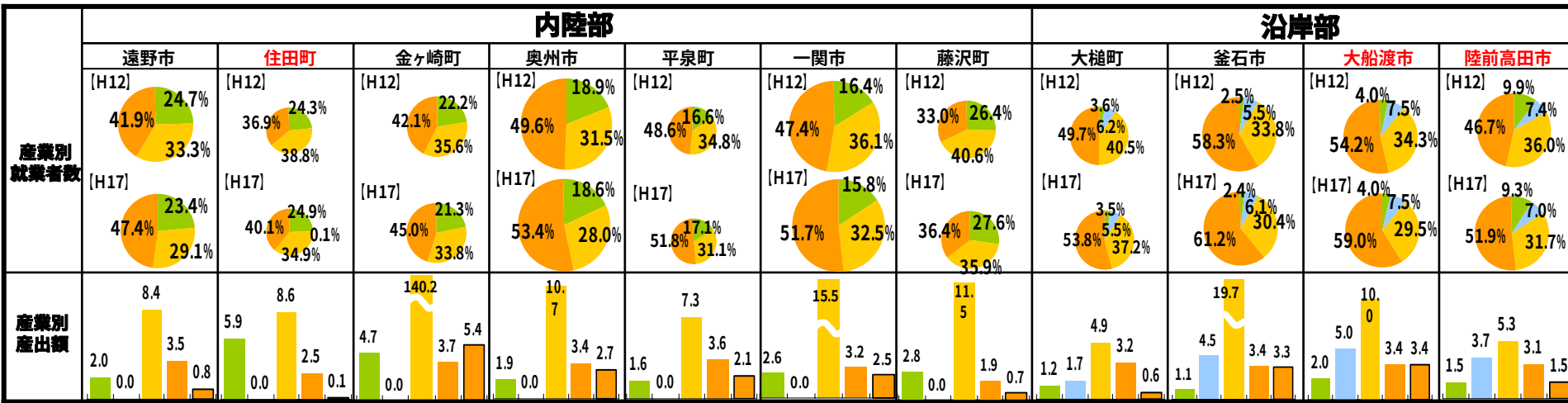
<http://www.wam.go.jp/>

2.地域の現状の把握 (雇用・産業)

<産業別就業者数>

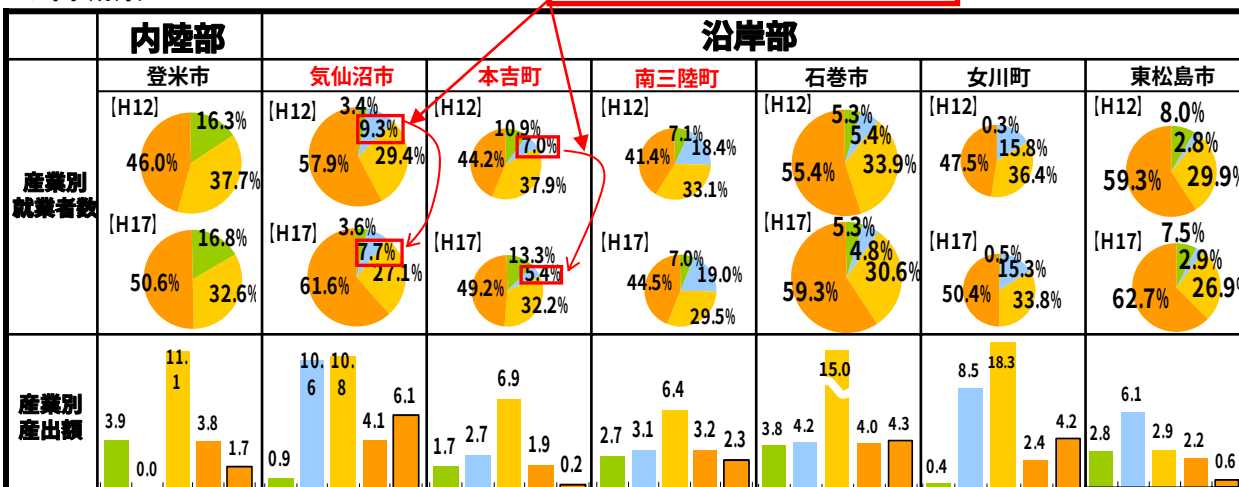
- ・沿岸部では、第一次産業就業者の多くが漁業に従事
- ・各市町村とも、第一次・第二次産業の就業者比率が低下、第三次産業で増加傾向

▼岩手県



▼宮城県

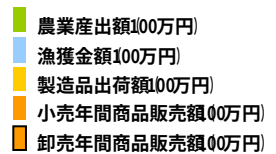
漁業就業者比率の低下が見られる



産業別就業者比率



産業別産出額



就業者数別円グラフ



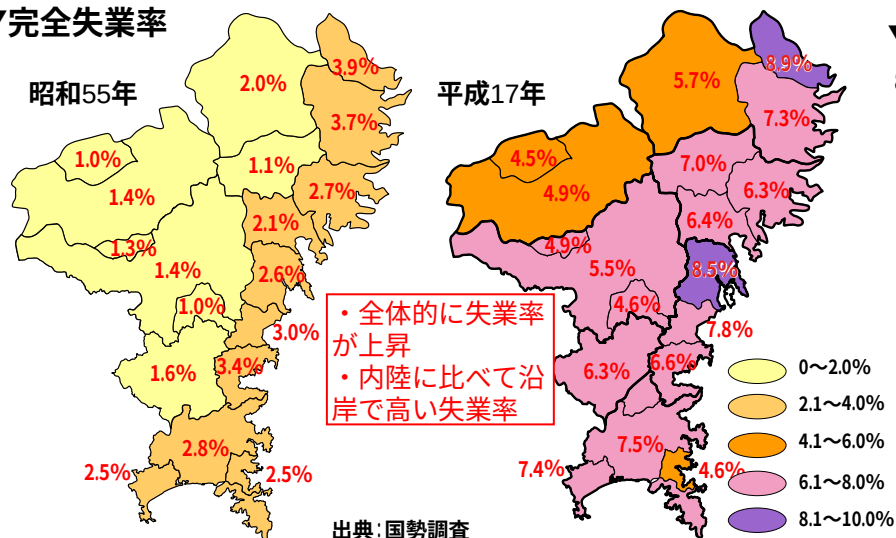
出典：平成12年国勢調査、平成17年国勢調査
2007年 商業統計、2006年 事業所企業統計
産出額は当該産業就業者一人あたり

2.地域の現状の把握 (雇用・産業)

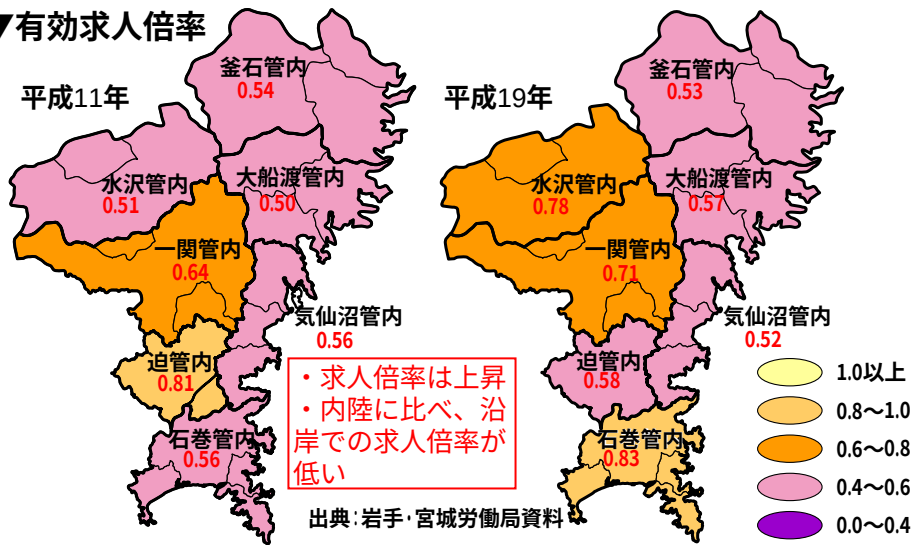
<厳しさを増す雇用情勢と収入源としての漁業の衰退>

- ・ 内陸部に比べて高い失業率と低い求人倍率
- ・ 気仙沼港の水揚げは高い水準だが、就業者の減少が顕著で漁業収入も停滞

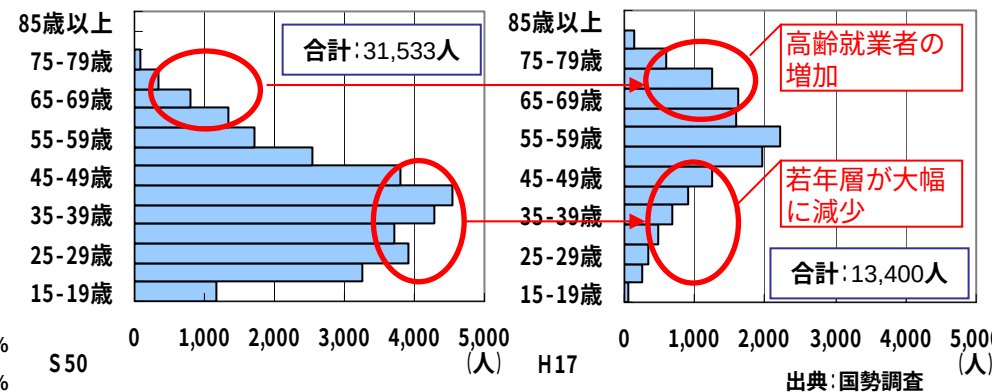
▼完全失業率



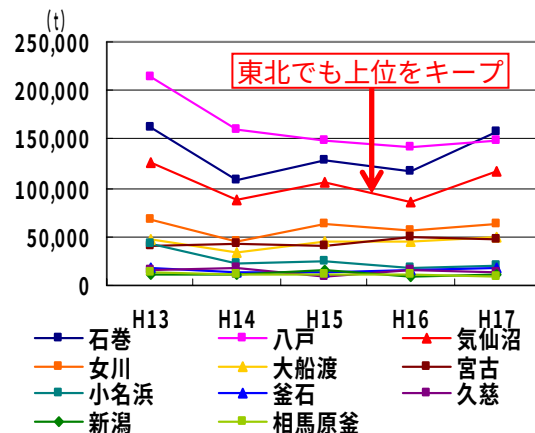
▼有効求人倍率



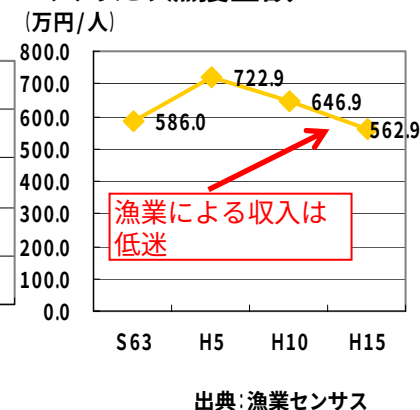
▼圏域内漁業就業者



▼東北の主要漁港 (水揚量1万トン以上) の水揚量



▼圏域内漁業就業者一人あたり漁獲金額



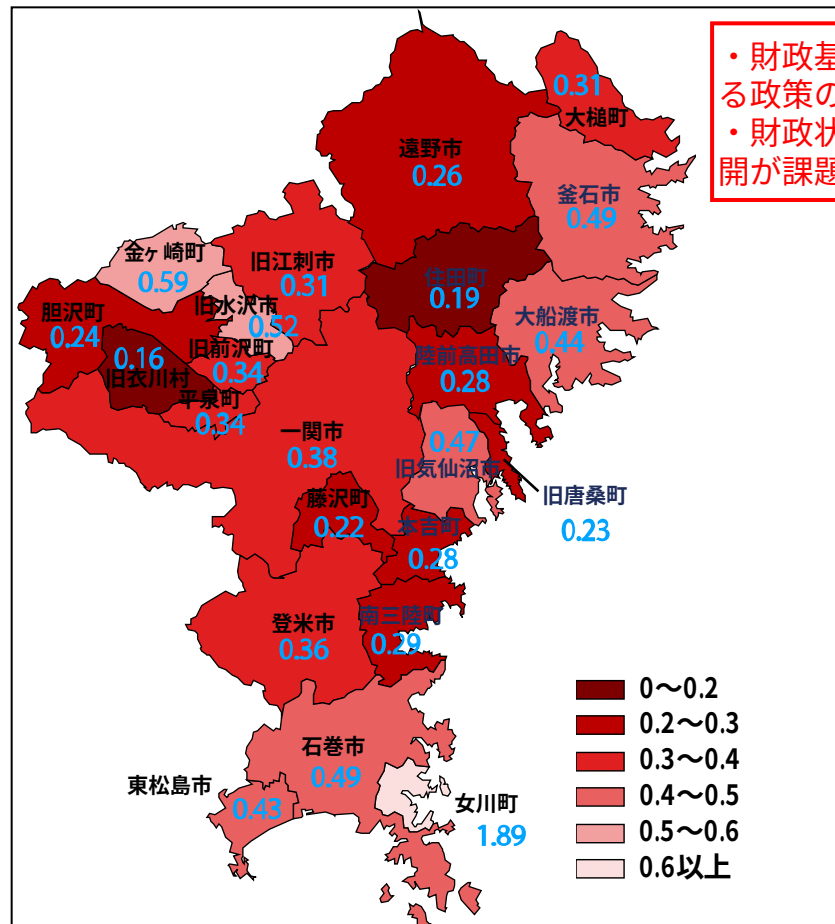
2.地域の現状の把握 (財政)

<市町村の財政状況>

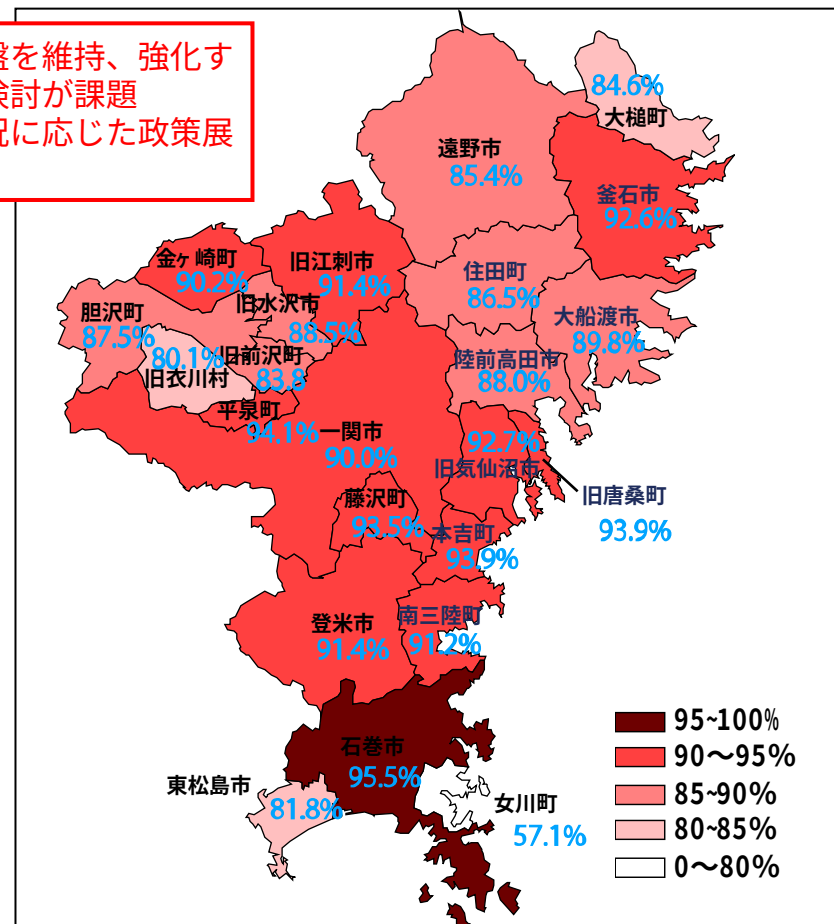
- ・ 内陸部に比較して三陸沿岸部で、財政基盤が弱い市町村が多数存在

▼市町村別財政力指数 (平成19年度、合併市町村は平成13年度)

▼市町村別経常収支比率 (平成19年度、合併市町村は平成13年度)



出典：市町村別決算状況調



出典：市町村別決算状況調

2.地域の現状の把握 (災害)

<過去の地震による津波被災状況>

- ・過去の地震津波により、多くの死傷者や行方不明者、家屋の被害等が発生

▼チリ地震津波による被災状況 (気仙沼市)



▼チリ地震津波による被災状況 (大船渡市)



- ・防災意識の風化防止
- ・過去の経験を踏まえた避難所、防波堤などのインフラ整備が課題

▼過去の地震津波による被災状況

			気仙沼市 (合併前)		旧唐桑町	陸前高田市		大船渡市
1896年 明治三陸 地震津波	人	死者	510		845	817		1,303
		負傷者	125		163	115		231
		合計	625		1,008	932		1,534
	家屋	流潰家屋	126		214	264		396
		半潰家屋	20		12	44		45
		床上浸水	—		—	39		42
		床下浸水	—		—	26		28
1933年 昭和三陸 地震津波	人	死者	7		60	80		95
		負傷者	6		7	17		—
		行方不明	—		—	26		25
		合計	13		67	123		120
	家屋	流失家屋	5		93	506	136	188
		全壊家屋	3		15	398	87	73
		半壊家屋	8		9	69	33	93
		床上浸水	43		112	133	49	222
		床下浸水	82		26	23	14	93
1960年 チリ地震 津波	人	死者	—		33	8		52
		行方不明	2		5	—		1
		合計	2		38	8		53
	家屋	流失家屋	5	5	186	409	108	245
		全壊家屋	59	10	996	149	47	239
		半壊家屋	163	42	—	309	151	620
		床上浸水	2,341	1,459	62	310	151	267
		床下浸水	1,679	581	62	24	15	109
総被害額 (千円)		996,960		—	566,844		8,082,219	

(資料 各市町村史。ただし、気仙沼市は、「宮城県既往津波災害調査報告書 (S60年3月 宮城県)」より
住家+非住家 住家 住家+非住家 住家 建物 (単位:棟)

3.生活圏域の設定

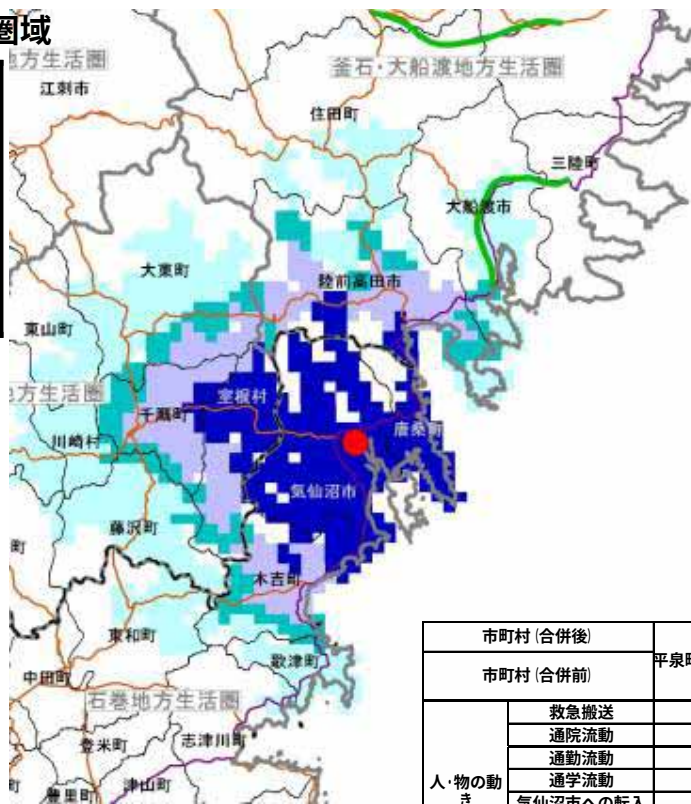
- 市町村が日常生活圏と考える40分カバー圏(「21世紀生活圏研究会」中間報告による)は、気仙沼市・旧唐桑町・旧室根村・旧千厩町のほぼ全域、陸前高田市・本吉町・旧大東町の一部

▼気仙沼市からの等時間カバー圏域

等時間カバー圏域	圏域に含まれる面積	圏域内人口(H17)
30分圏域	308km ²	75,506人
40分圏域	535km ²	108,090人
45分圏域	688km ²	122,525人
60分圏域	1,274km ²	199,149人

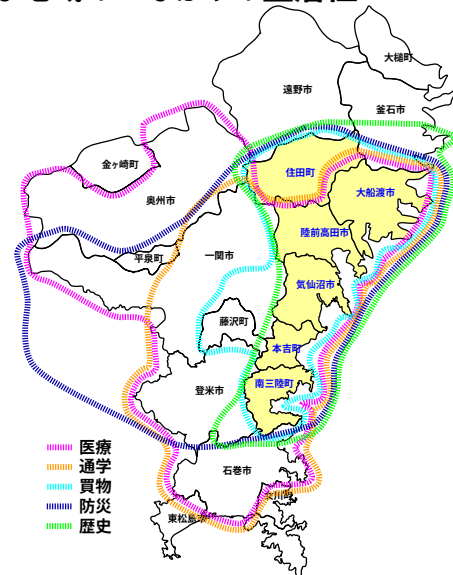
- ※DRMデータ、H17国勢調査より、1kmメッシュで算出
- ※道路ネットワークは、H19年度末
- ※速度条件は、H17センサス旅行速度を基本とし、H17以降の整備路線および市町村道は道路種別・車線数別に一律に設定
- ※道路のないメッシュは白抜き
- ※市町村名は合併前

凡	例
●	気仙沼市役所
■	30分カバー圏域
■	40分カバー圏域
■	45分カバー圏域
■	60分カバー圏域
—	市町村界
—	地方生活圏
—	県境



凡	例
道路種別	整備済み区間
高規格幹線道路	—
地域高規格道路	—
直轄国道	—
補助国道	—

▼様々な地域のつながりの重層性



市町村(合併後)		平泉町	藤沢町	一関市			大船渡市		住田町	陸前高田市	気仙沼市		南三陸町			登米市		石巻市
市町村(合併前)				その他旧市町村	旧千厩町	旧室根村	旧大船渡市	旧三陸町			旧気仙沼市	旧唐桑町	本吉町	旧歌津町	旧志津川町	旧津山町	その他旧市町村	
人・物の動き	救急搬送																	
	通院流動																	
	通勤流動																	
	通学流動																	
	気仙沼市への転入																	
	気仙沼市から転出																	
	買物流動(買回品)																	
買物流動(最寄品)																		
行政連携	災害支援協定																	
	広域消防	→→→→→			→→→→→			→→→→→			→→→→→			→→→→→			→→→→→	
	ごみ処理	→→→→→			→→→→→			→→→→→			→→→→→			→→→→→			→→→→→	
歴史	陸奥国気仙郡																	
21世紀生活圏(仮説)																		

- 医療・買物・歴史などの実際のつながりを考慮し、気仙沼市・本吉町・南三陸町・陸前高田市・大船渡市・住田町を圏域として捉える

4.地域課題の整理 (行政ヒアリング)

<行政の問題意識・課題認識>

- ・水産業を守り育てていく意識が強い
- ・高齢化に伴う問題や中心市街地対策に危機感を持つ
- ・道路整備等による広域的なつながりの強化に必要性を感じている

<気仙沼市ヒアリング>

- ☆日本一のカツオ・サメの水揚げ
- ☆八戸を抜き、東北一の漁港
- ☆スローフード宣言都市

しかし…

- ・「交通基盤」の遅れが地域の弱点
- ・新たな工業の誘致・立地は難しい
- ・中心市街地がシャッター街である

これから…

- ・第一次産業(水産)と観光の街を目指す
- ・地域で水産業を守っていく
- ・広域的な地域間協力が必要
- ・高速道路整備による大船渡～本吉の一体化
- ・大船渡・陸前高田・気仙沼の役割分担

<陸前高田市ヒアリング>

- ・少子高齢化が進展
- ・医師不足が顕在化 (特に循環器系)
- ・第一次産業が厳しい状況
- ・小中学校で複式学級が増加
- ・産婦人科医がいなかったため市内で出産できず
- ・公共交通(バス)が赤字経営、補助支出

これから…

- ・少子高齢化対策
- ・水産物養殖とブランド化を推進
- ・広域的な合併も視野

<大船渡市ヒアリング>

- ・中心市街地での空き店舗が駐車場化
- ・中心市街地では高齢化・後継者が不足
- ・中心市街地→ロードサイドへ移る店舗あり
- ・廃プラスチックや冷凍食品の輸出がある

5.地域の潜在力を示す事例 (地場産業のブランド化)

〈日本一の生産量を誇るフカヒレのブランド化〉

・地域特産品のブランド化による外貨の獲得につなげる

■日本一の生産量を誇るフカヒレ
⇒気仙沼での生産量は全国の8割

■フカヒレブランド化へ向けた取組み
⇒様々な加工品を作り、付加価値を創出
⇒フカヒレを活用した観光ツアーを実施
⇒HACCP基準の導入による食の安全の確保、高品質製品の供給

■ブランド化した商品の流通促進
⇒ネットを通じ、全国に販売
⇒認知度向上への努力

▼フカヒレの天日干し



出典：気仙沼市ホームページ

▼サメのヒレ切り作業



出典：宮城県水産技術総合センター
気仙沼水産試験場ホームページ

▼食材・伝統料理の体験学習



出典：気仙沼市ホームページ

▼フカヒレの加工食品



出典：気仙沼市ホームページ

5. 地域の潜在力を示す事例 (観光メニュー提供)

〈観光メニュー提供に向けた取り組み〉

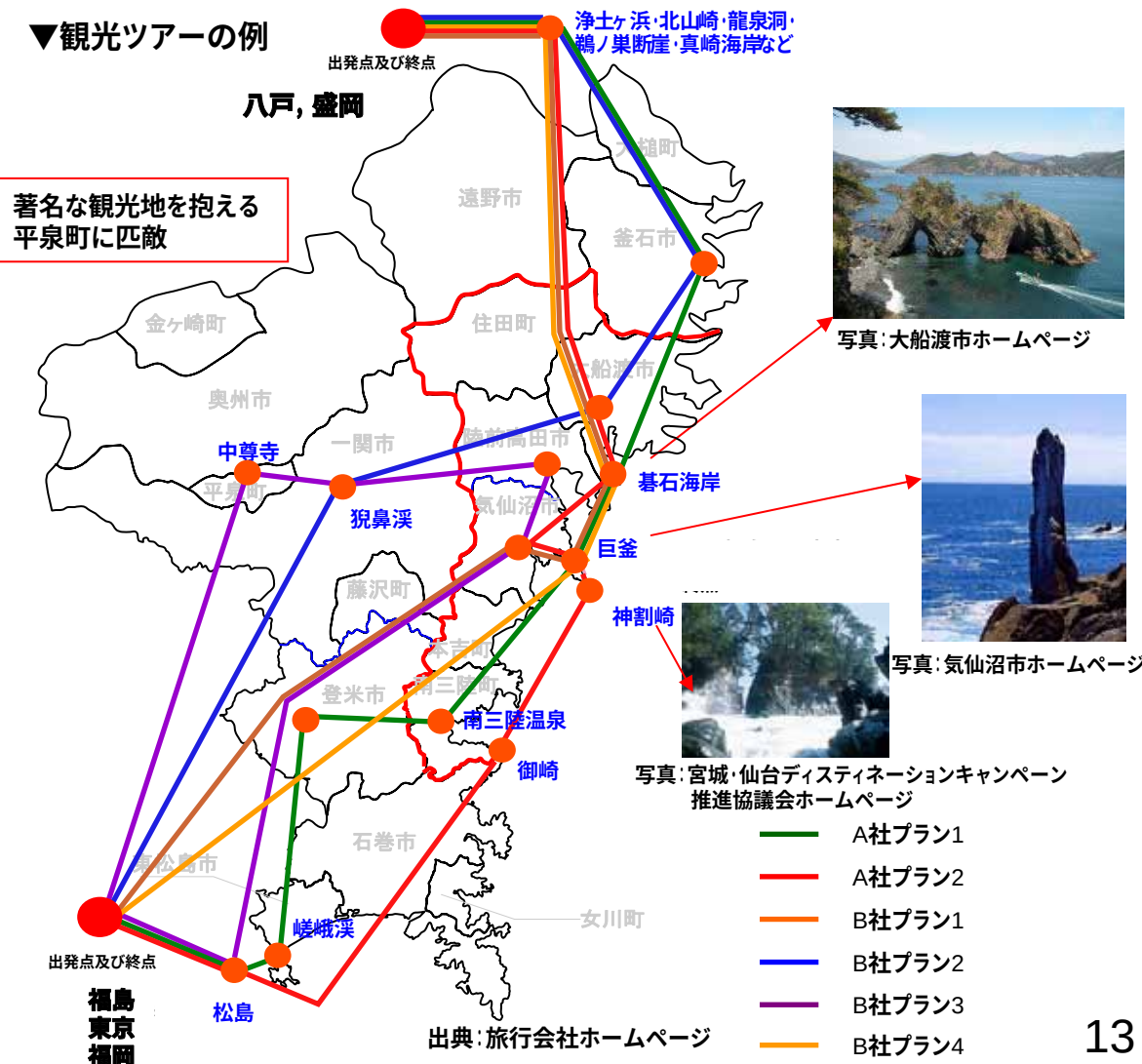
- ・ 平泉町などの著名な観光地に匹敵する入込客数を誇る
- ・ 豊かな自然に代表される多くの観光スポットがあり、旅行商品となっている

▼観光地入込客数

地域名	入込客数 (人)	
	平成12年	平成17年
石巻市	1,989,900	2,398,452
平泉町	1,700,050	2,208,500
登米市	1,508,300	2,037,507
気仙沼市	2,240,600	2,016,400
一関市	1,991,478	1,883,520
遠野市	1,801,393	1,523,781
陸前高田市	1,746,431	1,301,247
奥州市	3,249,038	888,021
南三陸町	918,000	817,180
東松島市	997,200	702,154
本吉町	503,500	582,701
大船渡市	1,502,021	570,542
女川町	748,800	514,198
釜石市	1,107,311	168,635
大槌町	208,006	-
金ヶ崎町	203,730	-
藤沢町	122,071	-
住田町	11,595	-

出典：全国観光動向

▼観光ツアーの例



5.地域の潜在力を示す事例 (地域産業の強化)

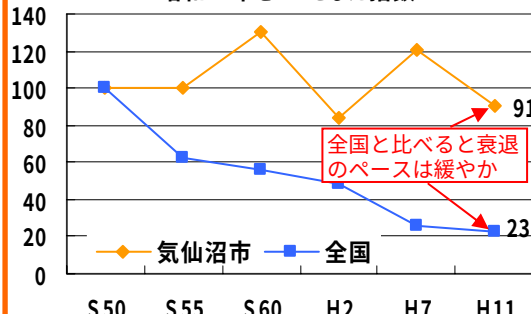
〈東北一・全国有数の漁港としての地位の確立〉

- ・近年、漁獲額は東北一位へ
- ・漁業環境の変化に応じた努力を継続し、東北一の漁獲額を達成

漁業環境の変化による遠洋漁業基地・気仙沼の危機

▼遠洋漁業による水揚量の推移

昭和50年を100とした指数



出典：海面漁業・養殖業生産統計調査

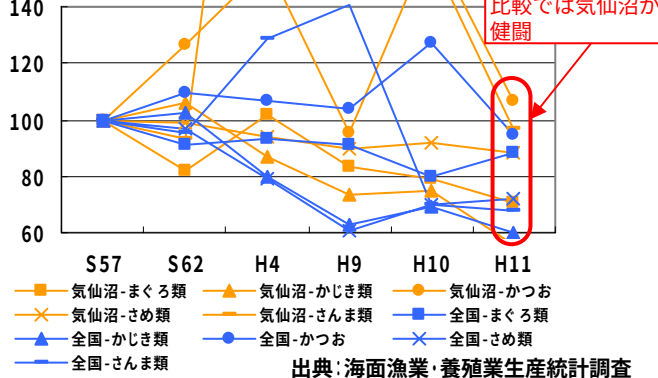
▼遠洋漁業を取り巻く環境の変化

1997年 (昭和52年)	領海法の改正	・200海里経済水域の設定
1978年 (昭和53年)	第二次オイルショック	・操業コストの増大
1990年代	輸入量の急増	・低コストの外国船との競合
1997年 (平成9年)	漁獲可能量(TAC)制度の実施	・水産資源の維持・回復のための漁獲量の管理制度
1999年 (平成11年)	国際協調減船	・日本の遠洋船661隻中132隻が減船 ・うち半数が気仙沼
2008年 (平成20年)	大西洋まぐろ類保存国際委員会年次会合	・大西洋クロマグロ漁獲枠削減

漁業環境の変化に対応するための気仙沼の努力と成果

▼魚種別漁獲量の推移

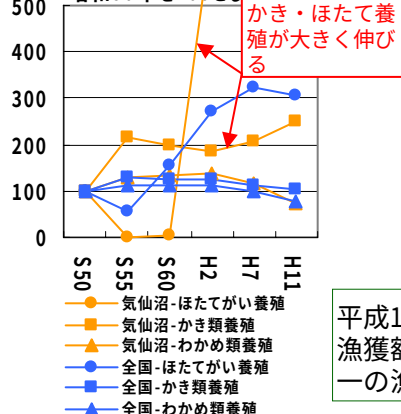
昭和57年を100とした指数



出典：海面漁業・養殖業生産統計調査

▼養殖種別収穫量の推移

昭和50年を100とした指数



平成19年以降、漁獲額では東北一の漁港となる

出典：海面漁業・養殖業生産統計調査

今後も漁業環境変化に応じた継続的努力が必要

- 遠洋まぐろ漁については国際的な資源管理と漁獲規制の気運が高まっており、遠洋漁業の環境は一層厳しくなることが予想される
- 縮小されたとはいえ、気仙沼港は現在も有数の遠洋まぐろ漁の基地であり、今後も漁業環境の変化に対応していくことが求められる

世界的に資源管理・漁獲規制の動きが強まると予想される

5.地域の潜在力を示す事例 (地域資源の活用と展開)

〈地域独自の資源の活用〉

- ・ 岩手県気仙地方では、気仙材の産出や気仙大工の技術が伝承・活用されてきた
- ・ 造船業で培った高い技術を活用し、新たな分野で独創性を発揮する企業もある

気仙材・気仙大工 (地域資源としての素材・技術)

気仙大工：陸前高田を中心とした地域で古くから技術を伝承してきた大工集団。民家を始め社寺建築や民具も手がける多様な集団



扇垂木の例



普門寺(陸前高田市)



長安寺(大船渡市)

出典：岩手けせん匠の里ホームページ

気仙材：古くより人工林の造林が行われ、伝統的に地域で使われてきたほか、ブランド化を推進



造成された人工林



協同組合の加工場

出典：大船渡地方振興局ホームページ

地域資源の これまでの活用

気仙大工の手による公営住宅団地



住田町営八日町住宅(住田町)
岩手けせん匠の里ホームページ

気仙材を活用した公営住宅整備の事例



県営鳴石アパート(陸前高田市)
岩手県県土整備部ニューズレターより

地域独自の技術資源を 応用した新たな展開事例

- 気仙沼市に本社を置く(株)高橋工業は、以前は大型漁船の建造を多数手がけてきた
- 漁業環境の変化により、漁船の受注が激減し、建築に活路を見いだす
- 造船で培った鉄の加工技術を独創的なアイデアで活用し、建築業者が尻込みするような施主の注文を次々と実現
- 手がけた建物の多くが各種の建築賞を受賞



リアスアーク美術館(気仙沼市)



せんだいメディアテーク(仙台市)



ブランドショップ(東京・銀座)



神保町シアタービル(東京・神田)

出典：(株)高橋工業ホームページ

〈全国初の高齢者介護福祉施設複合型再開発事業（三日町キングス・タウン）〉 ・安全・安心な高齢者の生活環境の創出

■事業の背景

⇒高齢社会の進展による老人福祉施設の需要の増加
⇒中心市街地において高齢者が居住継続できる環境整備が求められる

■事業目的

⇒中心市街地にふさわしい福祉、居住拠点の創出と定住の促進
⇒防火不燃化の促進と土地の合理的かつ健全な高度利用

■施設概要

⇒特別養護老人ホームを中核とする福祉施設のほか、コンビニエンスストア、市営住宅、分譲住宅を抱える複合施設

▼周辺状況(中心市街地の状況)



中心市街地は衰退傾向が顕著にみられる



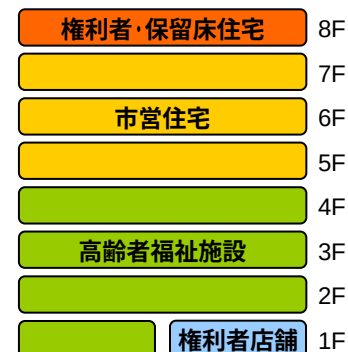
東北幹線道路調査事務所撮影

▼施設全景



出典: 気仙沼市役所

▼施設断面構成図

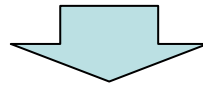


出典: 気仙沼市役所

7.仮説の立案と検証

【地域の目指すべき姿】

産業や生活の維持・向上に向けた連携や役割分担が展開される地域



◆市町村間の連携によって、生活機能の役割分担と集約・ネットワーク化を進めれば、生活サービス維持・向上に結びつくのではないか？

- 現在の生活機能立地と利用状況の把握
- 生活機能利用に伴う移動の発生状況の把握
- 役割分担による生活サービス維持・向上の検討
- 既存施設や人材を共有することによる生活サービス維持・向上の検討

◆流通機能が改善されれば、水産業・水産加工業の活性化が図られるのではないか？

- 現在の水産物・水産加工品の出荷状況の把握
- 水産品の、地域外における市場動向の把握
- 水産品・水産加工品流通上の問題点の把握
- 水産業・水産加工業における流通拡大の方策検討

◆移動性が改善されれば、観光の活性化が図られるのではないか？

- プロモーションなどの地域連携の把握
- 観光を目的とした地域内流動の状況把握
- 主要観光ポイント移動時間
- 魅力ある周遊ルートの検討

8.課題解決に向けた具体的手段の検討

◆目標の設定

- 水産業と観光業による地域経済の活性化と雇用の創出
- 連携による医療等の生活機能の充足

◆実施方法の想定

- 県境を越えた地域間連携の強化
 - ⇒連携の主体と内容の検討
- 連携を支援する社会資本整備とその活用
 - ⇒地域を結ぶ災害に強い道路ネットワークの整備
- 生活機能を拡充するまちづくり
 - ⇒高齢者を街の中心に呼び込む環境形成やコンパクトシティの推進
 - ⇒既存の生活機能を活用するための交通サービスの構築
- 他地域との連携による産業・経済基盤の強化
 - ⇒流通改善・観光振興のための、道路ネットワークの整備と活用
- 地域経済を支える産業の育成
 - ⇒地域資源・地場産業の組み合わせによる、農(漁)商工連携の推進